

協同

[特集] インボイス制度の導入まであと1年
～消費税の仕組みと組合員への影響～

2022
October
KYODO

10

兵庫の農業人
Hyogo-nougyoujin



タッグ!兵庫の農業人

直売所を通じた
農家所得の増大に取り組む

Farmer × JA staff
余田 拓馬さん
山本 優治さん
詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タグの様子は動画でも配信中心! ▶

▶ YouTube で 兵庫の農業・農協発信ch 検索



今月は JA丹波ひかみ

直売所を通じた 農家所得の増大に取り組む

しいたけの生育状況について話す余田さん(左)と山本さん



生産者

野菜作り3アール運動部会
部会長
余田ファーム代表
余田 拓馬さん

しいたけの栽培・出荷のみならず、しいたけを活用した加工品などの6次産業を進めていきます!また、新鮮で安全・安心な農作物をお客様に提供し、喜んでもらえるよう、日々農業に取り組んでいます!



JA職員

JA丹波ひかみ
営農経済部 営農振興課
専任営農相談員
山本 優治さん

直売所のリニューアルオープンに伴い、店内のレイアウトや陳列方法などを見直し、お客様に快適に利用してもらえるよう今後も取り組んでいきます!直売所が地域住民に愛され、信頼される地産地消の拠点となるよう頑張ります!



JA丹波ひかみは、直売所の売場面積を拡大することで出荷農作物を充実し、出荷者の所得増大を図るため、今年7月29日に「とれたた野菜直売所」をリニューアルオープンさせた。直売所では、秋から冬にかけては、同JAの特産品である小豆や黒大豆が主力品目で、秋から春にかけて、特に地域住民から人気を集めているのが、しいたけである。

「有機の里いちじま」といわれる丹波市市島町で、原木からしいたけを栽培し、同JA直売所に出荷している余田拓馬さんは、平成26年8月の豪雨災害をきっかけに、被害にあった里山を守り、丹波市の自然環境を活かした農業を行うことによって地域を活性化させたいと思い、しいたけ栽培を始めた。

現在は、合計40aの里山とハウスで、1万本の原木しいたけを栽培している。しいたけは気温の影響で、一般的には春と秋に市場に出回る。だが、余田さんは、ハウス内の湿度や温度を日々細かく調整し、人工的に里山のような環境を作ること、一年中しいたけを収穫し、一年を通して直売所に出荷している。また、栽培したしいたけを粉末状にした、しいたけの粉を製造するなどの6次産業にも取り組んでいる。

JA丹波ひかみ営農経済部営農振興課の山本優治さんは、7年前に入組し、直売所出荷者に対する営農指導や特産品の振興にかかる生育調査、栽培講習会の開催等を担当している。余田さんは山本さんに対し、「直売所でのお客様の声や要望を共有してくれたり、しいたけの品質についてアドバイスをくれたりして非常に助かっている。また、直売所の在庫が無くなったら電話で知らせてくれて、より多くのお客様に農産物を提供できるように、積極的に対応してくれる」と話す。

JA丹波ひかみは、直売所出荷者に対する営農指導や積極的な情報交換を行い、直売所を通して、農業生産の拡大と農家所得の増大を目指す。

JA丹波ひかみの農業生産の拡大・農家所得の増大に向けた取り組み

JA丹波ひかみは、7月29日に
農業生産の拡大と農家所得の増大に向け、
「とれたた野菜直売所」をリニューアルオープンさせ、
売り場面積を拡大した。

直売所の売場面積 204㎡→324㎡